

α-SGR(ルクバト)V2.1.5 からの便利な使い方

α-SGR_V2.1.5 からは、Windows7 の対応と共に、便利な機能を追加いたしましたので紹介します。

お願いとご注意:

α-SGR_V2.1.5 & 6 は、旧バージョンのガイドパラメータ等を引き継ぎませんので、旧バージョンからガイドパラメータを引き継ぐ場合は、旧バージョンにおいて設定値の保存をさせていただき、新バージョンにアップデート後、設定の読み込みをお願いします。

追加機能:

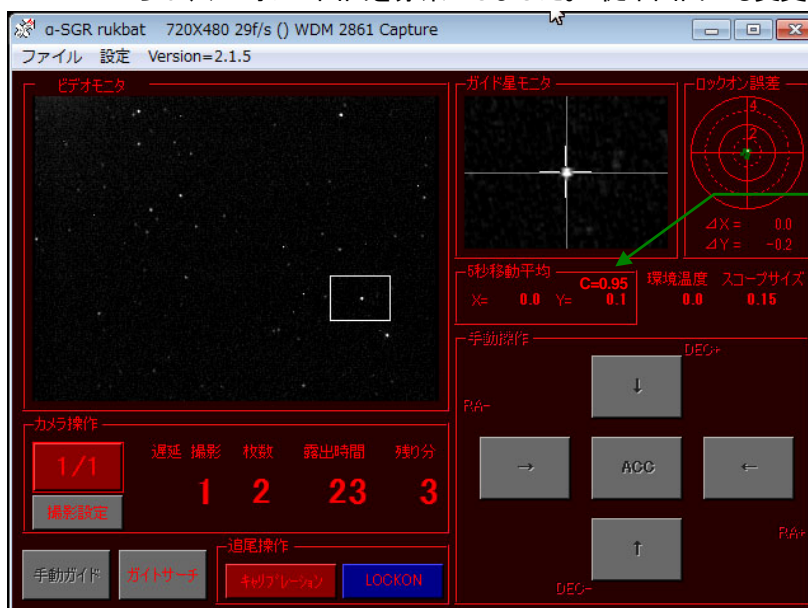
- 1, ガイドパラメータ(キャリブレーションデータ)の編集
- 2, ガイドパラメータ(キャリブレーションデータを含む)各種パラメータの保存と読み込み
- 3, キャリブレーション無しの自動ガイド実行

★これらの機能を利用することによって、一度キャリブレーションを行った対象(例:オリオン座等)を名前を付けて保存し、同じ対象付近を追尾する場合は、設定値を読み込むだけで、自動ガイドを開始することが出来ます。

★また、太陽追尾等キャリブレーションが難しい天体を追尾する場合は、ガイドパラメータの計算値を入力する事によって自動ガイドが可能になります。

- 4, ガイドの中止と自動再開

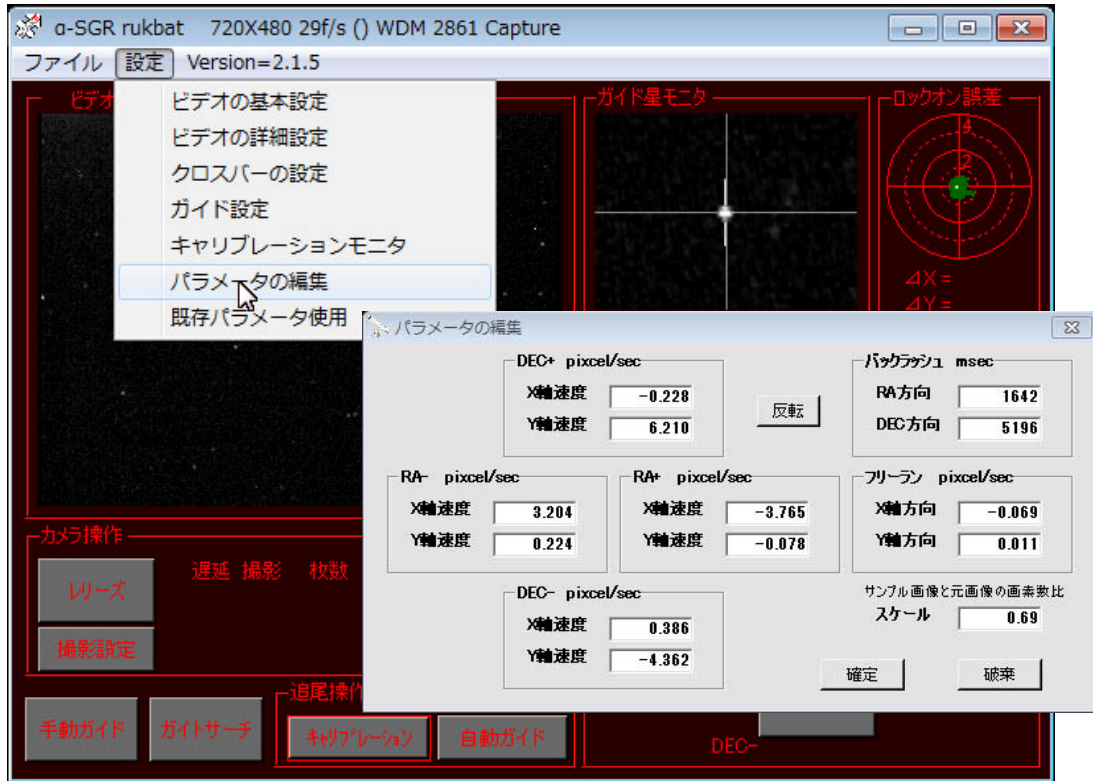
初期画面:V1. 2. 5からは、デフォルト画面を赤系にしました。 従来画面にも変更可能です。



ガイド星のコントラスト表示追加 (V2.1.6~)

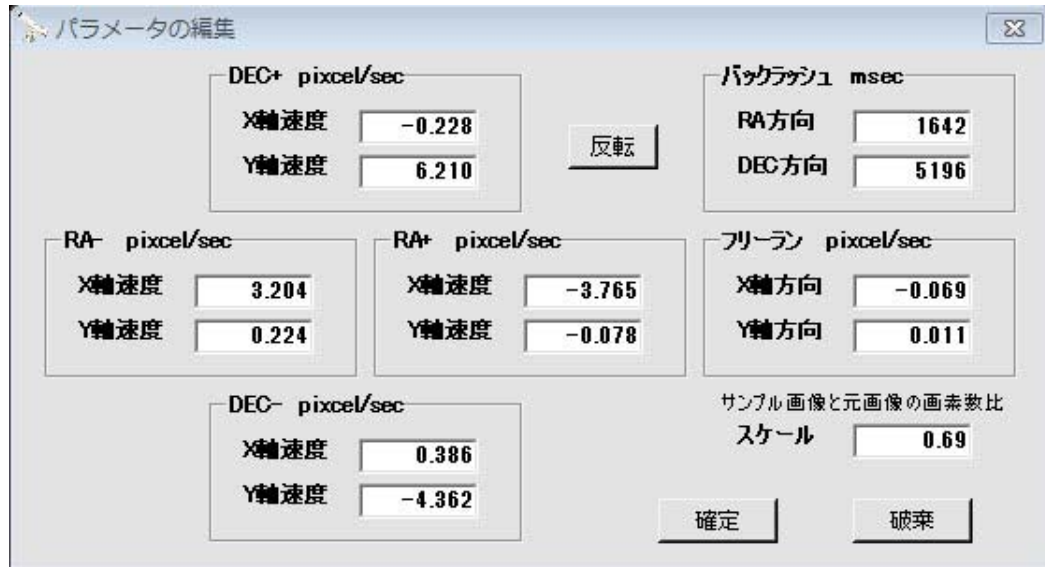
1. ガイドパラメータ(キャリブレーションデータ)の編集

通常のキャリブレーション実行後、設定メニューの「パラメータ編集」によって、データの参照及び編集が出来ます。



この編集画面で変更、設定が可能です。

赤道儀がパラメータ食事と東西反転している場合は、下記「反転」ボタンで変更します。



2. ガイドパラメータ(キャリブレーションデータを含む)各種パラメータの保存と読込

保存:ガイドパラメータの確認及び編集後、ファイルメニューの「設定の別名保存」で、全てのパラメータを保存します。

例:この時、保存名にガイド領域の名前(例:オリオン#001.xml)等を付けて保存します。

保存したファイルは、次回のガイドパラメータとして使用可能です。

これらは、「設定の読込」によって読み出すことができます。

3. キャリブレーション無しの自動ガイド実行

自動ガイドのを中断した場合や、「設定の読込」によって、ガイドパラメータを読み込んだ場合は、設定「既存パラメータ使用」によって、内部に持っているパラメータによって、評価から即実行可能です。



★この操作は、「既存パラメータ使用」1回を実行すると、次回からは自動ガイドボタンによって、停止/実行が可能になります。「ハイスピードは解除してありますか?」「OK」で即実行します。

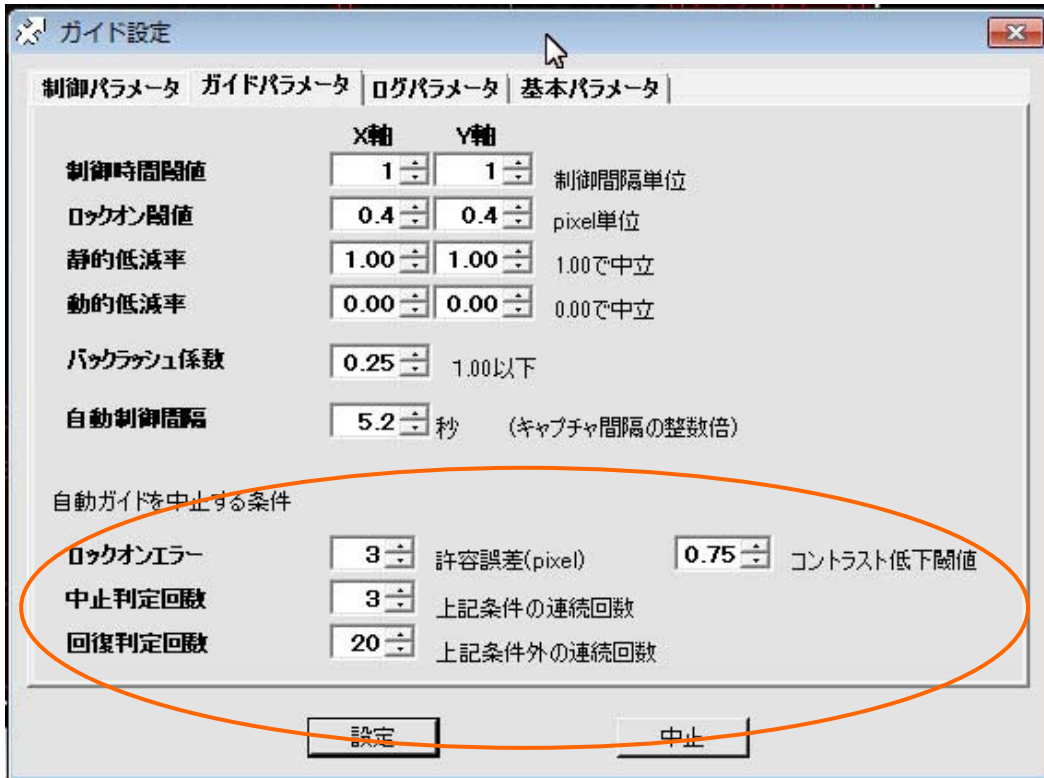
★従来と同様ですが、「キャリブレーション」ボタンが赤の場合は、自動ガイドボタンで即実行可能です。

★パラメータの編集や設定の保存/読込等は、「キャリブレーション」を解除してから行ってください。

4. ガイドの中止と自動再開機能

★旧バージョンでは、雲などの通過によってカイドを中止しましたが、自動再開は出来ませんでした。
V1.2.5 から、ガイド星が基準値より外れた場合、又は、ロックオン時のカイド星のコントラストが設定値以下に低下した場合、自動停止します。

★ガイドの再開は、上記条件が、「回復判定回数」カウントした場合、ガイドを自動再開します。



★ロックオン停止中画面(自動ガイド可能な条件を待っています)

